

# 国語科と生活科の関連を図る授業づくり

## —学びの深まりを求めて—

Lesson Planning to Build a Relationship Between Language Learning and Life Environmental Studies

## —Toward a Deepening of Learning—

櫻 本 明 美\*・藤 池 安 代\*\*

### 要 旨

国語科教育の中で生活科との関連を示唆する活動が多くある。特に、新学習指導要領で目指す国語科のあり方、生活科のあり方とその姿が明確に示されている。

移行期にある今これまでの国語科教育や生活科教育の実践を省みて課題を明らかにし、国語科・生活科の関連による学びの深まりを求めて、その具体化に迫る。

キーワード：国語科教育 生活科教育 授業設計 単元開発 教材開発 教師の力量形成

### 1. 研究の目的

改訂小学校学習指導要領が、2年後には完全実施となる。その「総則」には、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、各教科等の関連を図ることの重要性について、次のように明記している。

各教科等において身に付けた知識及び技能を活用したり、思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等を發揮させたりして、学習の対象となる物事を捉え思考することにより、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（以下「見方・考え方」という。）が鍛えられていくことに留意し、児童が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ること。（「第3 教育課程の実施と学習評価」1（1）  
下線は引用者。）

このことを課題として、国語科と生活科との関連に的をしぼって考えてみる。国語科では、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資

---

\* 神戸親和女子大学 発達教育学部 児童教育学科 名誉教授

\*\* 神戸親和女子大学 発達教育学部 児童教育学科 教授

質・能力を育成することを目指している。一方、生活科では、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、具体的な活動や体験を通して、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することを目指している。どちらも、見方・考え方を働かせて、より豊かな人間性に培う力を養おうとするものである。ただ、目的の実現や問題の解決に向けて、国語科は主に言語活動を通し、生活科は主に具体的な活動や体験を通して点に違いがある。このような両者の共通点はもちろん、違いも積極的に生かす関連の図り方を工夫することが大切である。

では、このことについて、指導者には、どのように意識され実践に取り組みられてきたのだろうか。その実態に迫ることによって、これからの実践上の問題点を明らかにすることができる。その結果をもとにして、問題の解決に取り組むための具体的な方策を提示し、実践の充実に資することができるかと考える。

上記の考えに立ち、以下の方法で取り組む。

- ① 教科書教材の実状の確認
- ② 大学生の国語科と生活科の関連指導意識に関する調査（アンケートによる）結果のまとめと考察
- ③ 指導者の国語科と生活科の関連指導意識に関する調査（アンケートによる）結果のまとめと考察
- ④ 国語科と生活科の関連を生かす授業モデル（試案）の作成

## 2 教科書教材の実状

### (1) 生活科に軸をおいてみた場合

文部科学省の学習指導要領の生活科と教科等の合科的な指導や関連的な指導について教科書にはどのような配慮や工夫がなされているのかを考察する。調査対象の教科書としては、東京書籍、日本文教出版、光村図書の三社分とする。

その前に、平成20年度、30年度の学習指導要領に示されている内容を押さえておく。

○生活科と他教科との関わりとは

- (1) 生活科における合科的な扱い…ある活動の中で生活科と各教科等の両方の目標が達成されることをねらう取り組み
- (2) 生活科と各教科等の学習活動を関わらせ相乗効果をねらう関連としての取扱い
- (3) 一つの活動の中に生活科の複数の内容を関わらせて扱う取り組み

○生活科の学習過程（①～④が順序良く繰り返されるものではない）

- ① 思いや願いをもつ ② 活動や体験をする ③ 感じる・考える
- ④ 表現する・行為する（伝え合う・振り返る）

○国語科、音楽科、図画工作科、体育科だけではなく、低学年の全ての教科等と生活科との関連を図ること。

特に国語科との関連において

- ・見たり、探したり、育てたり、作ったりしたことが、例えば、書くことを見付け、伝えたいことを明確にすること、自分の思いや考えを明確にすることなどへ発展することが考えられる。
- ・生活科における豊かな体験を、国語科における、報告する文章や記録する文章を書く言語活動、日記や手紙などを書く言語活動などの題材として活用することは、表現することへの有効な動機付けとなる。

指導に当たって配慮すること

他教科等には、それぞれの目標や内容があるので、生活科の目標や内容の実現と共に、関連する他教科等の目標や内容が一層効果的に実現できるように配慮する必要があること。そのためには、単に題材や活動を関連付けるだけでなく、そのことを通して、それぞれの教科でどのような資質・能力を育成したいのかを意識する必要がある。

(文部科学省学習指導要領(平成29年告示)解説生活編「第4章 指導計画の作成と内容の取扱い」(4)他教科との関連 東洋館出版社 P58)

と示されている。

これらを踏まえながら、生活科と国語科の関連を図る活動を以下に箇条書きで列挙する。

- 生活科の特徴である幼児教育との関連において、総合的活動を生かしたスタートカリキュラムの中で合科的な指導、他教科との関連指導を行う。
  - ・初めての出会いでクラスの友達や上級生、先生と話すこと。(挨拶や遊びなど)
  - ・授業の約束(鉛筆の持ち方・話の聞き方・発表の仕方・教科書の読み方)
  - ・学校探検で見たこと、見付けたことを話したり、絵に描いたりする、出会った人や調べたいところでインタビューすること。
- 植物栽培・飼育活動(観察記録を書く、見付けたことを話す、グループで話し合う、栽培や飼育の計画を立てる、世話の仕方を考える、成長の記録をまとめる、観察してきたことを発表する)
- 町探検(探検の計画を立てる、インタビューの内容を考える、インタビューしたことをまとめる)
- 調べてきた季節についてグループで話し合ったり、最後は掲示物に仕上げたり、巻物や紙芝居、絵日記にまとめ紹介や発表をする。
- 身近な材料を使っておもちゃを作る計画を立て、実際に作って遊ぶ。
- 季節の紹介や葉っぱや木の実の作品、身近な材料で作ったおもちゃでお店や遊びランドを作成し、保育園や幼稚園児、保護者、地域のお世話になった人々に招待状を創り招待する。作品や遊びを紹介したり一緒に遊んだりする。

これらの活動では、生活科の目標だけではなく、国語科の聞く、話す、表現する、自分の思いや考えを書く活動とも関連を図ることが可能である。

生活科では、思考と活動や体験が、何らかの目的の実現に向かって、あるいは問題の解決に向かって行われる。

## (2) 国語科に軸をおいてみた場合

生活科は、第1、2学年の2年間を見通し具体的な活動や体験を通して、目標に迫ろうとするものである。この「具体的な活動や体験」とは、例えば、次のような学習活動をさしている。

例えば、見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶなどして対象に直接働きかける学習活動であり、また、そうした活動の楽しさやそこで気付いたことなどを言葉、絵、動作、劇化などの多様な方法によって表現する学習活動である。(下線は引用者。)

(文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説生活編』東洋館出版社 P10)

ここに例示されている学習活動のうち、「言葉」は、国語科のどの学習とも直結するものである。その意味では、関連を意識して取り組む教材を特定するのは、難しいかもしれない。ただ、現行の国語科教科書(A社版)第2学年の教材には、学習の「てびき」の中に「ひろがる」の欄が設けられていて、そこに生活科との関連を示唆したり明記したりしているものがある。それらは、以下の通りである。

- ① 「たんぼぼ」 … やさいの そだて方の せつめいにも じゅんじょが あるね。
- ② 「かんさつした ことを 書こう」 … 生活科で、いろいろな ものを かんさつする ときに つかおう。
- ③ 「ピーパーの大工事」 … 生活科の 学しゅうで、いろいろな ことを しらべる ときにも 生かせるね。
- ④ 「同じ ところ、ちがう ところ」 … 生きものや 草花を かんさつする ときに、ほかの ものと くらべて みよう。
- ⑤ 「おもちゃ教室」を ひらこう … あそびの きまりや 道具の つかい方を せつ明する ときに つかえるよ。

また、教材文に、「生活科」との関連を直接示しているものもある。次の通りである。

- ① 「『ありがとう』を つたえよう」 … 中川さんは、生活科の「町たんけん」のときに おせわに なった 村田さんへ、手紙を 書きました。
- ② 「名人を しょうかいしよう」 … みの回りには、どんな 名人が いるでしょう。  
友だちと 話しながら、思い出しましょう。
  - ・生活科の 学しゅうで 知り合った 人
  - ・家の 人

- ・学校に いる 人
- ・よく あいさつを する 人

第1学年の場合、第2学年のように記述している教材は見られない。ただ、生活科での「具体的な活動や体験」に重なる話題を取り上げている教材が幾つかある。次のようなものである。

- ① 「みつけた ものを はなしましょう。」 … 生活科「はじまり はじまり がっこうたんけん」
- ② 「なつやすみの おもいでを、みんなに はなしましょう。」 … 生活科「なつやすみが やってくる」
- ③ 「わたしの はっけん」 みのまわりの 花や 木、生きものなどの ようすを 文しょうに かいて、ともだちに つたえましょう。 … 生活科「あきを たのしもう」・「あきの ずかん」など
- ④ 「『おもいでブック』を つくろう」 … 生活科「大きく なったね 一年かん」

国語科の教科書は、現行（平成30年現在）では、5社のものが出版されている。そのうちA社の教材を見る限りにおいては、指導者が意識的に取り組もうとすれば、それに応じ得る内容を備えていることが分かる。

### 3 指導者及び学習者の意識に関する実態調査の結果とその考察

前項で教科書の活用による関連指導の可能性が確かめられた。しかし、それらを活用して学習あるいは指導に取り組んできた「学習者」及び「指導者」は、どの程度の関連意識をもって臨んできたのであろうか。今後の望ましいあり方を探るために、この点も確かめておきたい。

そこで、様々な年代の指導者をランダムに抽出し、質問紙によるアンケート調査を実施した。また、大学生を対象にして、小学生時代に学習した国語科と生活科の学習を振り返り、今、この2教科間の関連についてどのように意識しているのかを問うアンケートも、やはり質問紙により実施した。以下には、それぞれの結果を整理しまとめて示し、考察を加える。

#### (1) 学習者の意識に関する調査結果と考察

##### ① 調査の対象と方法

調査対象は以下の通りである。

- ・神戸親和女子大学2年次年生（84名 教科教育法・生活の受講前）  
比較参考に3年次年生（36名）
- ・調査の時期は、2018年7月
- 調査方法は、質問紙でのアンケートによる。

〈資料 I〉 学生に対する質問紙と集計結果

国語科と生活科の関連についての学習者の意識に関する調査

〔調査項目〕

1 学年 ( 2 ) 年次生 84名

2 国語科と生活科の関連について

小学校のころの国語科の学習と生活科の学習は、関連していると思いますか。あなたの考えに最も近いものをア～エから一つ選んで、その記号の ( ) に○を記入してください。

① これまでの実践を振り返って

ア ( 12 ) 関連していると思うことがある。

イ ( 36 ) ときどき、関連していると思うことがある。

ウ ( 25 ) まれに、関連していると思うことがある。

エ ( 11 ) ぜんぜん、関連しているとは思わない。

② ア、イ、ウのどれかに○をつけた人にたずねます。例えば、どんなことがそれに当たると思いますか。当てはまるものはすべてその記号の ( ) に○を記入してください。(複数回答可)

ア ( 6 ) 中心的な話題(題材) イ ( 36 ) 感想を書くこと

ウ ( 30 ) 観察して見つけたことを書くこと

エ ( 14 ) よく知っている物事の簡単な説明を書くこと

オ ( 29 ) 経験したことを書くこと

カ ( 12 ) ○○の作り方や遊び方の説明を書くこと

キ ( 23 ) お礼の手紙を書くこと ク ( 19 ) 人物や物の紹介を書くこと

ケ ( 34 ) 感想を話すこと コ ( 26 ) 観察して見つけたことを話すこと

サ ( 11 ) 物事の説明を話すこと シ ( 21 ) 経験したことを話すこと

ス ( 4 ) ○○の作り方や遊び方の説明を話すこと

セ ( 23 ) インタビューをすること ソ ( 7 ) 人物や物の紹介を口頭ですること

タ ( 18 ) 約束事などを決めるために話し合うこと ( 3～4人)

チ ( 17 ) 分からないことを図鑑で調べること ツ ( 0 ) その他

◎ 国語科や生活科の授業や活動で心に残っていることを自由に書いてください。

国語科…スーホの白い馬を音楽会でもした(国語科・音楽科の連携)。スイミーを学習、劇をしたことが楽しかった。教材に沿った劇をしたこと。あのね帳を書いた(国語科・生活科との連携)。気持ちを読み取ったりすることが難しく苦戦した、でも好き。本読み発表、校長・教頭・他の教師10人位に聞いてもらったことが心に残っている。まる読みで音読、漢字練習。登場人物のことについて話し合った。みんなで話を共有することが多かった。物語を作ったり絵本を作ったりしたこと。教科書に出てきた絵本を読んだこと。教科書の物語を読んで内容を理解したこと。討論「○○について」賛成派、反対派に分かれて自分の意見を言っていく。音読や感想文を書いた。好きな絵本を新聞にして皆に紹介した。

クラスで題を決めてディスカッションする。なり切ることで登場人物を整理できたしとても良い。自分の好きな題材についてまとめ、発表した。グループで話し合ったり、発表したり感想の交流が印象的。

生活科…アサガオの観察(2)。アジサイをスケッチした。種の種類やスケッチをしたこと、外で活動したこと。トマトを育てたこと、毎週観察しトマトの数が増えたり色が変わったり、少しの変化が分かればうれしかったし早く食べたいなと思った。ラディッシュを育てた。おいもパーティ。野菜を育てて、水やり。ナスびを育てたりして観察したこと。学校周辺で生き物、植物を観察。植物を育てた食べ物を育て観察記録。魚、虫、花の観察。森林に行った。野草さがし。経験したことを書いたり、話し合ったりしたことが多かった。地域の方にヨモギ団子のつくり方を教えてもらった。身の回りにある植物の観察。植物の名前を当てる。自然によく触れた。クラスでメダカを飼った。メダカを育てて卵から孵ったこと。学校探検したこと(2)。昔遊び(こままわし)。町探検で商店街のお店の人にインタビュー。児童だけでお店に行き話を聞いた。地域探検、校区内をグループで回る(保育園、神社、公民館)。インタビュー体験をしたこと。スクールヘルパーのおじさんに手紙を書いた(おかしをくれた)。小さい頃の写真を貼ったりして思い出アルバムを作った。年賀状の書き方を学んだ。生活で学んだ植物を国語でも学んだ記憶がある。(文中の数字は人数)

#### 〈アンケート結果のまとめ〉

生活科と国語科との関連はあるととらえる学生は、深まりに程度の差はあるものの87%いる。授業の内容をはっきりとは覚えていないが、印象的な単元での関連を捉えている。この結果から、生活科では、各教科との総合的な指導や関連的な指導が重視され、そのような指導のあり方を、学生達も自然に受け入れていたのではないかと考える。

参考に、教科教育法・生活を学んだ大学3年次29名の調査では、93%が国語科との関連を理解している。100%にならなかったのは、幼児教育を専攻している学生も含まれているからかもしれない。

#### ② 考察

学生にとって生活科の授業体験が「強く印象に残っている」者と「なんとなくそうだったような気がする」という者がいる反面、「全く覚えていない」、または、「生活科って何」と問う者がいる。

しかし、アンケート調査時は下記のような結果だが、「教科教育法・生活」の授業を受講していく中で、小学校時代のあの活動は生活科だったのだと振り返ることができ、生活科のねらいを学ぶ中で、体験した活動の意図を理解し、教師の授業に対する多くの配慮や工夫にも気付

いていくのである。

### 学生への質問①の回答集計結果

2年① これまでの実践を振り返って

ア ( 12 ) 関連していると思うことがある。

イ ( 36 ) ときどき、関連していると思うことがある。

ウ ( 25 ) まれに、関連していると思うことがある。

エ ( 11 ) ぜんぜん、関連しているとは思わない。

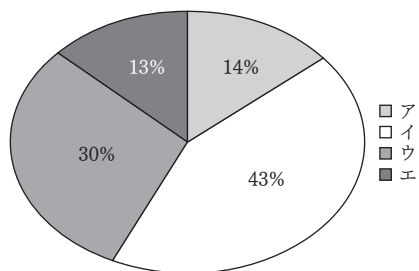
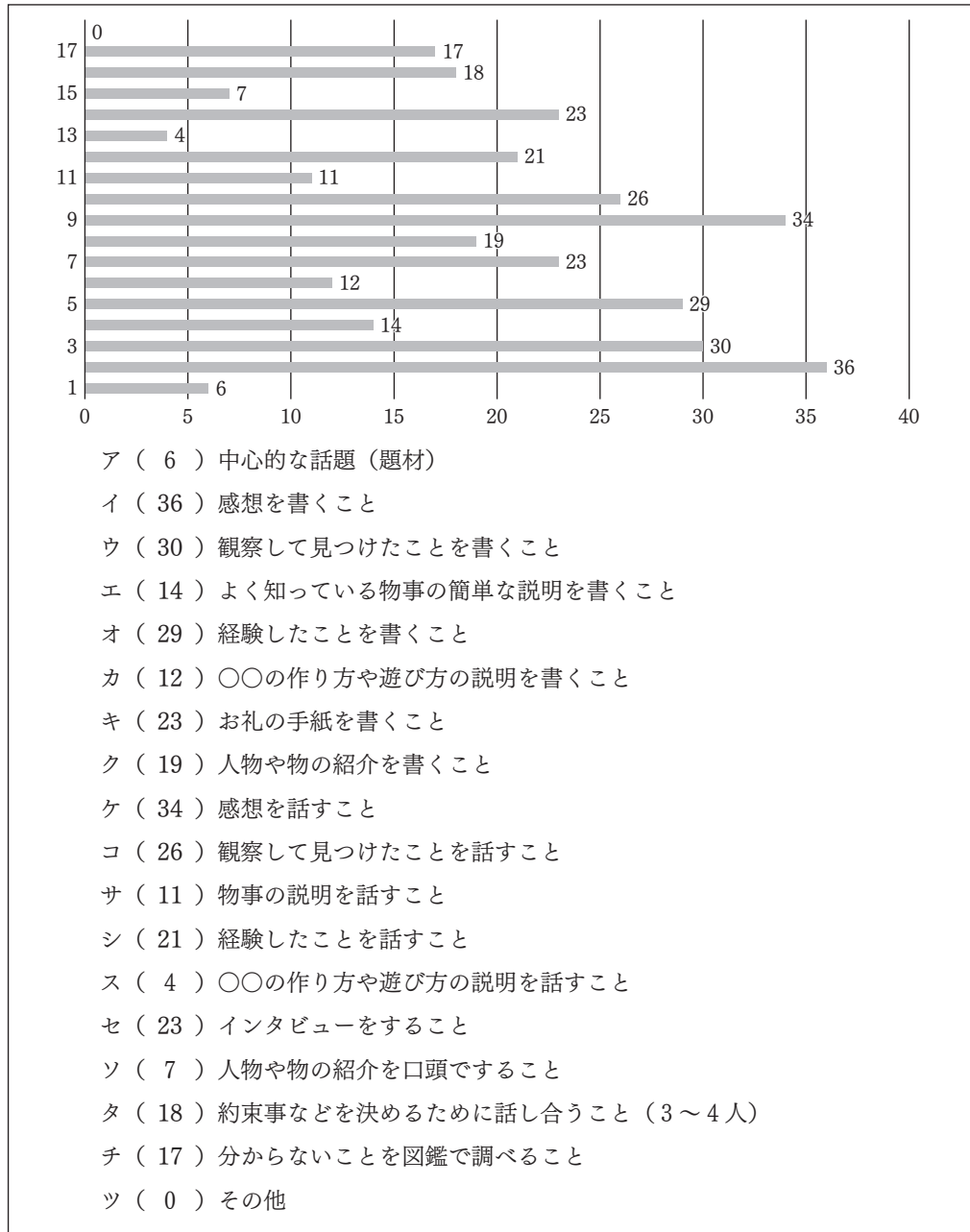


図1. 2年生の調査結果

次に関連する活動についての意識に関する問いには、次のような回答が得られた（次頁図2を参照）。この結果から、生活科と国語科との活動の関連の中で ・感想を書く ・感想を話す ・観察して見つけたことを書く ・経験したことを書く ・観察したことを話す ・経験したことを話すとあり、体験したことの感想や観察、経験について書いたり、話したりしたことが印象に残っていると判断できる。



図2. 学生への質問②に対する回答集計結果



(2) 指導者の意識に関する調査結果と考察

続いて、指導者の意識についても調べた。その結果を整理してまとめ、簡単な考察を加える。

① 調査の対象と方法

調査の対象は、以下の通りである。

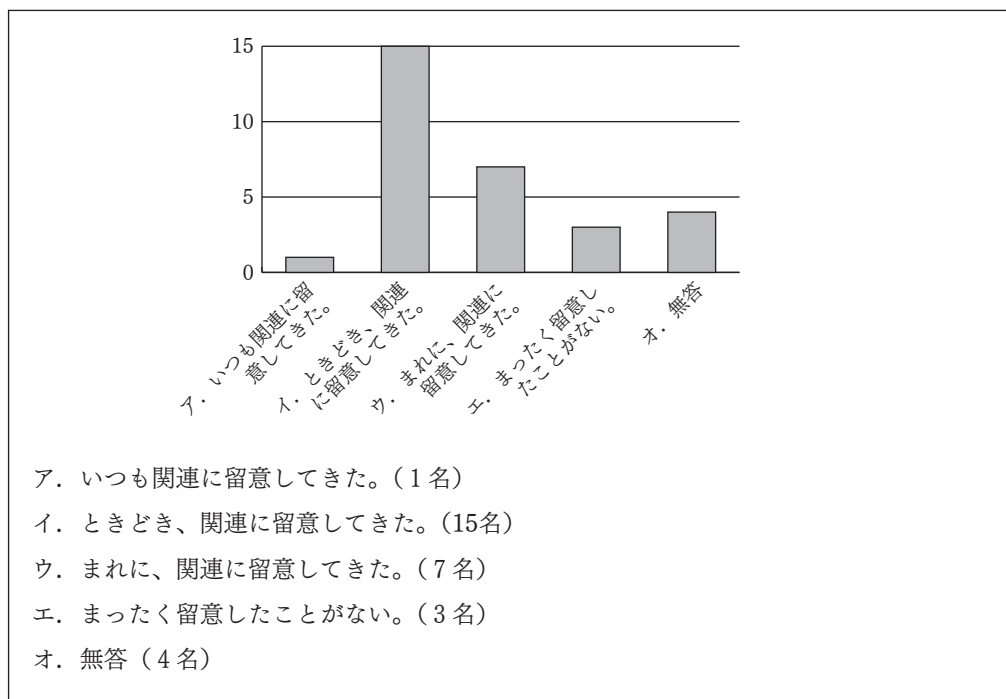
- ・小学校の教員（大阪府・市、神戸市在職）30名をランダムに抽出
- ・調査の時期は、2018年7～8月に実施

調査方法は、質問紙でのアンケートによる。（アンケート用紙は、論文末資料を参照。）

## ② 国語科と生活科の関連についてのこれまでの意識と実践事例について

これまで、国語科と生活科の関連をどの程度意識して実践してきたか。この問いについては、次の通りの回答が得られた。

図3. 指導者への質問①の回答集計結果



この結果から、「いつも」とは言えないが、多少なりとも関連に留意してきた指導者が75パーセントを超えていることが分かる。「まったく留意したことがない」と答えている3名は、経験年数が1年、あるいは経験年数は10年程度ではあるが第1・2学年の担任経験がないということである。

次に、実践した具体的事例を1、2例挙げることを求めている。その回答結果を学年別に整理して以下に記す。

表1. 指導者への質問②の回答集計結果

第1学年	
国語科単元	生活科単元
a ・「おてつだい」(生活文の作文)	・おてつだいをする
b ・「はなのみち」(物語文)	・植物の種から花が咲くまでの過程の観察
c ・「おおきくなった」(観察文の作文)	・観察カードづくり

第2学年	
国語科単元	生活科単元
a ・「インタビューのしかた」(話す・聞く)	・インタビュー
b ・「おもちゃの作り方・あそび方」(作文)	・おもちゃ作り(おもちゃランド)
c ・「おもちゃ教室を開こう」(おもちゃまつりへようこそ)(説明文、話す・聞く)	・おもちゃ作りを伝えること
d ・「かんさつ名人になろう」(観察文の作文)	・野菜育てと観察(ミニトマト)
e ・「たんぼのちえ」(説明文)	・たんぼの観察
f ・「たんぼ」(説明文)	・植物の観察カードづくり
g ・「しかけカードの作り方」(説明文)	・招待状づくり
h ・「『ありがとう』をつたえよう」(作文)	・お礼の手紙を書く
i ・「こんなもの見つけたよ」(話す・聞く、書く)	・町探検で観察したことの作文

この中で、挙げた人数の多いものは、「かんさつ名人になろう」(第2学年d、8名)である。また、「おもちゃの作り方・あそび方」(第2学年b、4名)と「おもちゃ教室をひらこう」(同学年c、3名)で、おもちゃ作りに関する関連学習を計7名が挙げている。

以上の結果から、これまでの実践において、指導者の多くは、特に「植物の観察」や「手づくりおもちゃ」を題材にする場合に、多少なりとも関連を意識してきたものと言えそうである。

### ③ 今後の取り組みへの意識

次に、今後の取り組みの必要性に関する意識を問う質問への回答を見てみる。(アンケート用紙4の③及び④を参照。)③では、「国語科の単元に生活科の学習を関連づけること」の必要性を問うものである。その結果は、必要性が「非常に高い」(3名)、「高い」(23名)、「低い」(2名)、「非常に低い」(0名)「無答」(2名)である。この結果は、ほとんどの指導者が関連指導が必要だと考えているということを示している。一方、④では、「生活科の単元に国語科の学習を関連づけること」の必要性についてである。その結果は、必要性が「非常に高い」(3名)、「高い」(23名)、「低い」(2名)、「非常に低い」(0名)「無答」(2名)である。

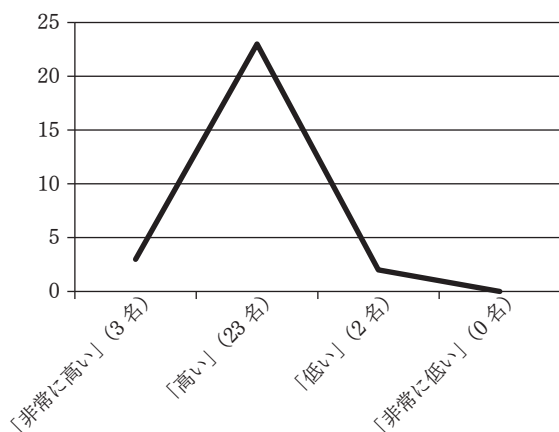


図4. 指導者への質問③、④の回答集計結果

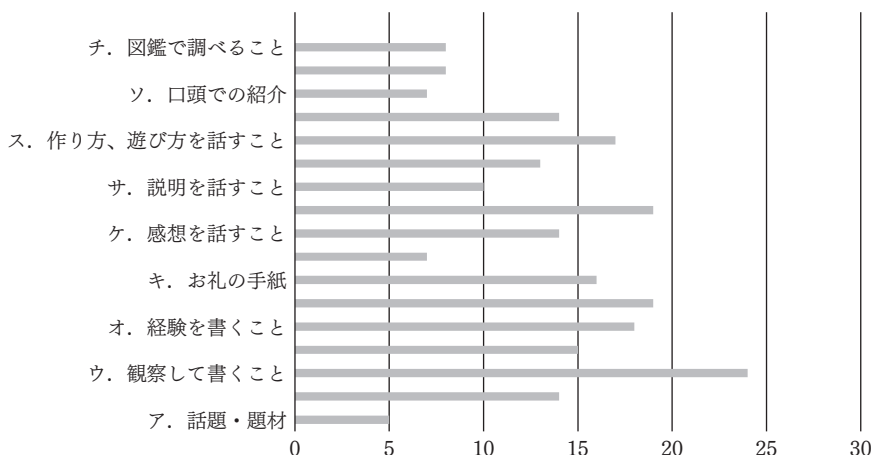
以上の結果から、国語科、生活科の関連指導への意識は、これまで以上に高まっていると言えそうである。

④ これからの関連指導に向けての着眼点

これからの関連指導に向けての着眼点に関する問い（論文末資料P115-P116を参照）には、次のような回答が得られた。\*（）内は、パーセントを表わす。

ア（話題・題材） 5名（16.7）	イ（感想を書くこと） 14名（46.7）
ウ（観察して書くこと） 24名（80.0）	エ（物事の簡単な説明） 15名（50.0）
オ（経験を書くこと） 18名（60.0）	カ（作り方、遊び方の説明書） 19名（63.3）
キ（お礼の手紙） 16名（53.3）	ク（人物や物の紹介文） 7名（23.3）
ケ（感想を話すこと） 14名（46.7）	コ（観察して話すこと） 19名（63.3）
サ（説明を話すこと） 10名（33.3）	シ（したことを話すこと） 13名（43.3）
ス（作り方、遊び方を話すこと） 17名（56.7）	セ（インタビュー） 14名（46.7）
ソ（口頭での紹介） 7名（23.3）	タ（決めるための話し合い） 8名（26.6）
チ（図鑑で調べること） 8名（26.6）	ツ（その他） 0名（0）

図5. 生活科・国語科相乗効果が期待できる事項（人）



以上の結果から、様々な関連指導の可能性が期待できる。中でも、「観察して書いたり話したりすること」（ウ、コ）や、「かんたんなおもちゃの作り方や遊び方の説明文を書いたり話したりすること」（エ、カ、サ、ス）に、指導者が注目していることが分かる。

#### 4 生活科と国語科の関連を生かした単元構成モデル（試案）

前節で述べている通り、関連指導を考えるとすれば、「植物の観察」あるいは「おもちゃ作りとそれを使った遊び」は、児童にも指導者にも、無理のない話題と言えそうである。そこで、

生活科と国語科の関連を生かした単元構成モデル（試案）の作成にあたって、まずは、この結果を踏まえたものとする。

以下に、単元「おもちゃ教室ようこそ」を例に学習過程を具体化し、単元構成モデル（試案）として提示する。

- (1) 単元名 「おもちゃ教室ようこそ」(第2学年)
- (2) 目標 ○遊びに使う物を工夫して作り、みんなと楽しみながら遊ぶ。(生活科)  
○聞く人が分かりやすいように、順序よく、工夫して説明する。または、読む人に分かりやすく説明する文章を書く。(国語科)
- (3) 学習指導計画(生活科5時間 国語科6時間 合科3時間 計14時間)

単元構成のモデル（試案）

教科	時間	活動内容
生	1	作るおもちゃを下記の例を参考にして考える。 ・レーシングカー ・キラキラロケット ・はこからニョキニョキ ・とびはねるコイ ・トコトコハムスター ・マツボックリのけん玉 など
	2	作りたいおもちゃが同じ人どうしてグループを編成する。(2～3人)
活 科	3	それぞれのおもちゃの作り方の簡単な説明書(たとえば、教科書『わたしとせいかつ』下 日本文教出版p.92～p.93)をもとに、グループのメンバーで協力しておもちゃを作りあげる。
	4	グループで作ったおもちゃで遊んだり、他のグループのおもちゃと交換して遊んだりして、手作りおもちゃ遊びを楽しむ。
	5	他のグループのおもちゃも作ってみたいという意欲を「おもちゃ教室」の実施計画の立案につなげるように話し合い、学習(国語科)の見通しをもつ。



教科	時間	活動内容
国 語 科	1	「自分のグループで作ったおもちゃの作り方と遊び方を順序よく説明して、みんなでも楽しもう。」というめあてを確認し、改めて学習の見通しを確認する。
	2	既習教材「ヨットカーの作り方」(東京書籍2年上)を読み返して、じょうずな説明の仕方を思い出し「説明のし方のこつ」としてポイントを箇条書きに整理する。 [予想される事項] ・はじめに、作るものしょうかいをすること。 ・用意するものをぜんぶあげること。 ・「作り方」「あそび方」はわけて、じゅんじょよく。 ・「作るときのちゅうい」も、つけくわえること。 ・くふうしたあそび方もしょうかいすること。 ・絵や数字をつかうこと。 など。
	3・4	「説明のし方のこつ」を使って、「作ったおもちゃのしょうかい」「ざいりょうと道具」「作り方」「あそび方」をそれぞれのカードに書く。
	5	分かりやすく説明する工夫として、どんな絵や実物などがあればよいか考えて話し合い、決めたものを準備する。

国語科	6	カードを見ながら、絵や実物も使って説明の練習をする。 (または、カードに書いたことをつなげて、絵なども加え、説明の文章を書く。)
-----	---	---



生活科・国語科	12・13	「あそびのひろば」を楽しむ。 ・ブース形式で、おもちゃの作り方を説明したり、聞いて作ったりする。(または、各自、作りたいおもちゃを選び、その作り方とあそび方の説明文を読んで作る。)
	14	・作ったおもちゃで楽しく遊ぶ。 作って遊んだことを「ふりかえりカード」に書いて、感想を交流する。

## 5 まとめと今後の課題

学生の多くは、小学生の頃の生活科の学習経験を、「こんなことを学習した覚えがある。しかし、それが教科としての生活科であったのかどうかは、あいまい。」と言う。これは、その学習が、単に、生活科という1教科内に閉じられた学習内容としてではなく、むしろ学校教育全般にわたる学びとして捉えられてきたことの表れではないかと考える。

一方、指導者の側に立ってみても、この2教科の関連は、多くが意識してきたことであり、今後、さらに意識的な指導の工夫を求めていることが分かる。

この現状把握に立ち、これからの指導に資するものと考え、授業構想モデル(試案)を作成し提示している。

ただ、この試案については、二教科の関連が学習をより深めるものとなっているかどうかの検証が必要である。そこで、今後は、小学校教諭の協力をいただいて、この授業構想モデル(試案)に基づく授業を実施する。その結果を踏まえて検討を加え、より実践に生きる授業構想モデルとして提示したい。

### 〈資料Ⅱ〉教員に対する質問紙

#### 国語科と生活科の関連についての指導者の意識に関する実態調査アンケートについて

新学習指導要領にも示されている通り、教科等横断的な視点に立つ教育の推進が求められています。そこで、国語科と生活科の関連に的をしばって、指導者の関連指導を意識の実態を確かめ、問題点を明確にする必要があると考えます。そのうえで、今後の方策を明らかにしていくためのアンケートです。

ご協力をお願いいたします。

〔調査項目〕

- 1 経験年数 ( ) 年
- 2 第1学年及び第2学年の学級担任の経験回数
  - ア 第1学年 ( ) 回
  - イ 第2学年 ( ) 回

3 現在の担当(学年) 第( )学年 学級担任以外( )

4 国語科と生活科の関連について

① これまでの実践を振り返り、あなたの考えに最も近いものをア～エから一つ選んで、その記号に○をつけてください。

ア( ) いつも関連に留意してきた。

イ( ) とときどき、関連に留意してきた。

ウ( ) まれに、関連に留意してきた。

エ( ) まったく留意したことがない。

② ①でア、イ、ウのどれかに○をつけている人は、実践した具体的事例を簡単に記してください。(1～2例)

(例)・国語科の説明文教材「たんぼぼ」(第2学年)の文章を読む学習で、生活科の「たんぼぼの観察」をつなげる。

国語科

生活科

③ 国語科の単元で、生活科のつながりを考えた授業の工夫の必要性について、あなたの考えに最も近いものをア～エから一つ選んで、その記号に○をつけてください。

ア( ) 必要性が非常に高い。

イ( ) 必要性が高い。

ウ( ) 必要性が低い。

エ( ) 必要性が非常に低い。

④ 生活科の単元で、国語科とのつながりを考えた授業計画の工夫の必要性について、あなたの考えに最も近いものをア～エから一つ選んで、その記号に○をつけてください。

ア( ) 必要性が非常に高い。

イ( ) 必要性が高い。

ウ( ) 必要性が低い。

エ( ) 必要性が非常に低い。

5 これから国語科と生活科の関連を工夫する場合、関連を図ることで学習の相乗効果が期待できそうな事項として、着目するものをア～ツから選んで、その記号に○をつけてく

ださい。(複数回答可)

- ア ( ) 中心的な話題(題材)    イ ( ) 感想を書くこと  
ウ ( ) 観察して見つけたことを書くこと  
エ ( ) よく知っている物事の簡単な説明を書くこと    オ ( ) 経験したことを書くこと  
カ ( ) ○○の作り方や遊び方の説明を書くこと    キ ( ) お礼の手紙を書くこと  
ク ( ) 人物や物の紹介を書くこと    ケ ( ) 感想を話すこと  
コ ( ) 観察して見つけたことを話すこと    サ ( ) 物事の説明を話すこと  
シ ( ) 経験したことを話すこと    ス ( ) ○○の作り方や遊び方の説明を話すこと  
セ ( ) インタビューをすること    ソ ( ) 人物や物の紹介を口頭ですること  
タ ( ) 約束事などを決めるために話し合うこと(3～4人)  
チ ( ) 分からないことを図鑑で調べること    ツ ( ) その他

6 国語科、生活科の授業を実践していく上で、日ごろ工夫していること、感じていること、大変だと思うことなど自由にお書きください。

○ご協力、どうもありがとうございました。

### 〈引用・参考文献〉

- ・文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年度告示)解説 生活編』東洋館出版 平成29年7月
- ・文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年度告示)解説 国語編』東洋館出版 平成29年7月
- ・『わたしとせいかつ』上・下 日本文教出版 平成27年
- ・『新編あたらしいせいかつ』上・下 東京書籍 平成27年
- ・『せいかつ』上・下 光村図書 平成27年
- ・『こくご』1年上・下、2年上・下 光村図書 平成27年
- ・『こくご』1年上・下、2年上・下 東京書籍 平成27年